

## 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

- 地域DX推進ロードマップは、いいだ未来デザイン2028後期計画の各基本目標を実現するために必要な「手段としてのデジタル技術」を検討し、実装していくための取組をまとめた個別計画で、行政事務DX推進方針と連動して地域社会のDXを推進します。
- 取組テーマごとに、後期計画期間中の前半(R7・R8)に実装するものを「最優先“◎”」、後半(R9・R10)に実装するものを「優先“○”」、後期計画以降の実装に向けて取り組むテーマを「継続的検討“—”」で示し、優先度を設けて取り組みます。
- 各取組テーマのデジタル実装に向けた進捗状況は、「運用中」、「導入中」、「検討中」として管理し、年度ごとに取組内容や優先度、実装時期などの見直しを行い、適時に最適なデジタル技術の活用を図ります。

## 基本目標ごとの取組実績と今後の取組

## ◆基本目標1 市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
1-1 市政や地域への関心を高めるための情報発信(広報ブランド推進課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルツールを利用して市民に市政情報や地域情報を提供する</li> <li>飯田市ウェブサイト改善プロジェクトを継続的に進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市ウェブサイトの重点施策サイト(サブサイト)のリニューアル</li> <li>公式LINEやInstagram等による定期的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市ウェブサイトの継続的な見直し</li> <li>公式LINEやInstagram等の登録者増と定期的な情報発信</li> </ul>
1-2 持続可能な地域自治活動の推進(総務文書課、地域自治振興課)	○	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会を通じて紙で配布する文書や地域内の連絡手段をデジタル化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域情報アプリ「結いチャンネルデータ放送」活用を推進</li> <li>会議資料のクラウド保存による共有化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存地域情報アプリの利活用促進</li> <li>デジタル化に向けた各地区での検討促進</li> </ul>
1-3 文化財のコンテンツ化による地域の魅力向上(文化財保護活用課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>飯田市公開型GISにて文化財の所在地をマッピングして、所在地やその属性などを明示化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIS(いいだWebまっぷ)に埋蔵文化財包蔵地の情報を公開</li> <li>調査履歴をGIS上で管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の調査履歴や文化財情報をGISに反映させるため、2～3年ごとに更新作業を実施する</li> </ul>
1-4 文化財等の理解促進(文化財保護活用課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財等の学習説明動画の作成や閲覧環境を整備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごんが歴史交流館にて「恒川官衙遺跡」の動画(長編短編)タッチモニターコンテンツを製作</li> <li>考古博物館の展示解説動画を更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごんが歴史交流館の学習活動での動画活用</li> <li>考古博物館の展示解説動画の更新</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標1 市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる

取組テーマ		優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
1-5	美術博物館での学びの場の環境整備 (美術博物館)	○	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館した市民に親しみをもってもらうための催事等の工夫</li> <li>来館契機となる展示やイベントの情報発信</li> <li>来館者が展示を見て学ぶための援助ツールの設置</li> <li>展示制約が発生するものや仮想復元された文化財等のデジタル展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座(自然講座等)をハイブリッド(実地オンライン)で開催、参加申込をWebで実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「古生物学の系譜」(R8.7.11～10.4予定)にて、化石等の3Dデータを作成しタブレットで閲覧できる環境を整備する</li> </ul>
1-6	飯田の魅力発信、学び推進のための総合的アーカイブの構築 [デジタルアーカイブ] (文化財保護活用課、中央図書館、美術博物館、歴史研究所)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保護活用課、中央図書館歴史研究所、美術博物館に所蔵されている紙の資料やマイクロフィルム等をデジタル化し、各施設の資料が一括検索できるアーカイブを整備する</li> <li>災害や経年劣化等による損壊や消失リスクのある文化財や史資料を、3D読み取りなどによりデジタルアーカイブにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財発掘調査写真(フィルム)約14,000カットをデジタル化</li> <li>高岡第1号古墳石室の3D測量を実施</li> <li>郷土新聞のデジタル化と検索提供を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘写真のデジタル化継続</li> <li>古墳石室の3D測量を毎年度1～2箇所実施</li> <li>各施設の所蔵資料目録の一括検索に向けた情報収集</li> </ul>
1-7	飯田の魅力発信、学び推進のための総合的アーカイブの構築 [収蔵品のデータベース化] (美術博物館)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術博物館の収蔵品のデータベース化</li> <li>経年劣化等による損壊や消失リスクのある資料をデジタルアーカイブにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤本四八ガラス乾板写真(12点)や35mmモノクロネガフィルム写真(7,295点)のデジタル化を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き藤本四八写真資料等のデジタル化を進める</li> </ul>
1-8	飯田の魅力発信、学び推進のための総合的アーカイブの構築 [史資料等の目録データ化] (歴史研究所)	—	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史研究所が保存している史資料等の目録をデータ化し公開する</li> <li>紙の資料をデジタル化し保存する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取り組みはなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8～10年度に検討、令和11年度に要件整理を行う予定</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標1 市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる

取組テーマ		優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
1-9	移住定住・関係人口づくりの推進 (結いターン移住定住推進課)	○	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>増加するUIJターン相談者情報の一元管理や情報配信機能を持つシステムを構築する</li> <li>クラウドサービスを利用したデータ管理により相談者と行政双方の利便性を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>UIJターン相談者情報のクラウド管理システム構築(フェア等で利用)</li> <li>メルマガ自動配信の仕組みを導入準備中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度中に構築したシステムを本格稼働させ、ブラッシュアップしていく</li> </ul>
1-10	空き家の利活用 (結いターン移住定住推進課)	—	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>探し手が求める情報の発信</li> <li>より多くの探し手に届く手段の活用</li> <li>宅建業者との物件情報の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物件登録公開、GISデータを活用した土地利用範囲の図面作成提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物件登録公開を継続し、市ウェブサイト上の空き家バンク情報の充実に向けた調査研究を行う</li> </ul>
1-11	外国人住民が生活しやすい地域づくり (窓口対応課、公民館、共生・協働推進課)	○	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口等での翻訳アプリ等を活用した外国語対応</li> <li>外国人の方へのデジタルツールを利用した情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口等でスマホ翻訳アプリの活用を推奨</li> <li>日本人サポーターと共に日本語教室を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口等で通訳翻訳アプリのさらなる活用を進める</li> <li>ニーズに合わせた日本語教室の内容検討と開催</li> </ul>
1-12	地域イベントの省力化 (生涯学習・スポーツ課)	○	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルツールやデバイスを活用し、効率的で安心安全な地域イベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やまびこマーチ等でデジタルツール活用の必要性を確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツイベントのあり方そのものを検証し、ソリューション実装の必須性をセットで検証する</li> </ul>

## 基本目標1の総括

### 1. 市政情報の発信と地域自治活動のデジタル化

市ウェブサイトの重点施策サイトのリニューアルや、公式LINE、Instagram等を活用したプッシュ型の情報発信、地域の自治活動における会議資料等のクラウド保存による共有化

### 2. 文化財・歴史資料・美術品のデジタルアーカイブ化と活用

公開型GIS(いいだWebまっぷ)を活用した埋蔵文化財の情報提供、ごんが歴史交流館のデジタル展示コンテンツの作成、発掘調査写真、郷土新聞、写真資料などのデジタルアーカイブ化

### 3. 移住定住、空き家対策、外国人住民への支援

UIJターン相談者の情報を一元管理するクラウドシステムの構築による行政と相談者双方の利便性向上、空き家物件の登録・公開に加え、GISデータを活用した土地利用範囲情報の提供、外国人住民の支援として、窓口におけるスマートフォン等の通訳・翻訳アプリの活用を推進

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標2 人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
2-1 災害時の情報伝達手段の確保 (危機管理課、広報ブランド推進課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>GISを利用して災害情報を可視化、集約化し、情報共有を図る</li> <li>災害時の避難情報等を多数の媒体(個別受信器等)で発信するためのシステム連携による効率化を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害用ウェブページ作成更新訓練</li> <li>自主防災組織と協働して、GIS(いいだWebマップ)を活用した災害情報の収集及び集約訓練を実施、台風災害時に活用</li> <li>防災アプリ「結防」の機能改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害用ページ継続管理、LINE登録者数、防災アプリの利用者数の増加促進</li> <li>いいだWebマップに自動採番機能を追加し、運用改善を進める</li> </ul>
2-2 災害時の迅速な避難者情報の把握 (危機管理課)	○	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所への入所退所時にデジタルツールを使用し、手書きで記入していた避難者情報をデータで管理する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所受付システムのデモ確認等、費用対効果を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練等で受付方法を検証し、システムの情報収集を継続する</li> </ul>
2-3 災害時避難行動要支援者の個別避難計画の作成 (危機管理課、福祉課、長寿支援課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災アプリを活用して避難行動要支援者の個別避難計画を作成し、地域住民と自治体側で情報を共有することで避難を支援する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別避難計画対象者を抽出し、防災アプリ「結防」で計画策定を推進</li> <li>結防の機能紹介啓発動画を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画を活用し、防災アプリのさらなる利用と自助・共助・互助の強化を図る</li> </ul>
2-4 体験型防災学習 (危機管理課)	○	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>AR、VR防災学習コンテンツを活用することで、リアルな自然災害の状況を体験し学習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き検討する</li> </ul>
2-5 被災者の迅速な生活再建 (税務課、市民課、危機管理課)	◎	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時、市民からのり災証明申請のオンライン化 電子化による申請→調査→証明発行の電子化とデータの一元化</li> <li>り災証明発行データを活用した生活再建の進行管理</li> <li>窓口の混雑緩和と対応人員の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイナ申請によるり災証明手続試験</li> <li>県WGに参加し住家被害認定調査システム導入検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県WGへの参加を継続し、令和9年度以降のシステム導入を目指す</li> </ul>

※優先度:◎ 最優先、○ 優先、— 継続的検討

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標2 人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
2-6 消防団業務の効率化と負担軽減 (危機管理課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生情報の取得による全団員への情報共有</li> <li>参集状況の明確化、水利情報の把握、被害状況の情報共有</li> <li>消防団行事のスケジュール管理や団員の出勤報告の負担軽減</li> <li>各種報告書の一元化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防団アプリ「Fire Chief」を令和7年1月1日から本格運用開始し、団員の出勤可否など動態管理が可能</li> <li>初動での情報共有により、災害対応が迅速化・効率化</li> <li>出勤通知、動態管理、活動実績登録の負担が軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリの機能改善に合わせ、全団員への連絡事項周知などに有効活用する</li> </ul>
2-7 消費者トラブルの未然防止 (市民課)	○	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なメディアへの情報発信による情報に触れる機会の増加</li> <li>プル型からプッシュ型への情報発信形態への移行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール、アプリ(結防、母子モ)、LINE等でのプッシュ型発信</li> <li>出前講座、街頭啓発、イベントへの出展による情報発信</li> <li>民生児童委員と協働した見守り活動などの情報提供等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プッシュ型発信や講座の継続、新たに啓発動画の制作も検討</li> </ul>
2-8 社会インフラの効率的な整備・改良 [事業者からの申請電子化] (維持管理課、土木課、水道課、下水道課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事担当業者との書面のやり取りなどについて、電子化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水工事、排水設備申請の電子化を試行運用開始し、業者からの要望を受け改良を実施</li> <li>工事の協議、しゅん工書類について、情報共有システム、電子納品の試行運用を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水工事、排水設備申請の電子化の調整、本格運用開始</li> <li>工事書類電子化の本格運用を開始</li> </ul>
2-9 社会インフラの効率的な整備・改良・管理 [インフラに対する各種要望・工事計画の一元管理](土木課、水道課、下水道課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民からの新設及び改良に係る要望の一覧管理</li> <li>長期的な工事計画の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道課窓口設置の水道GISへ工事箇所を明記</li> <li>GIS操作研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GISに搭載するレイヤー・属性と、継続して活用できるように搭載・更新方法を検討(R8要件整理)</li> <li>前年度に検討した内容を実施し、関係課との情報共有(R9実装)</li> </ul>
2-10 社会インフラの効率的な維持管理[GISの活用](維持管理課、水道課、下水道課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路網図、上下水道管の埋設状況に関する情報を飯田市公開型GISで公開し、市民との情報共有を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上下水道管や消火栓情報を公開(下水道は3月更新予定)</li> <li>道路網図をGIS(いいだWebまっぴ)で公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管網図等の情報の精度向上を図る</li> <li>市道の認定・廃止・変更箇所について、道路網図を修正する</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標2 人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
2-11 社会インフラの効率的な維持管理[市民・事業者からの申請電子化](維持管理課)	◎	導入中	各種インフラ系施設の使用管理等に要する申請書類のデータ化と工事関係申請等を電子化する	公園使用許可の電子化に向けて調整中	公園使用許可の電子化受付の開始 その他申請の電子保管方法の検討
2-12 社会インフラの効率的な維持管理[市民からの道路・公園の異常通報](維持管理課)	◎	運用中	道路損傷情報等の通報、状況把握の効率化を図る	LINEによる道路・公園等の不具合の通報受付により、施設管理業務を効率化	LINE通報受付を引き続き行い、施設管理業務を効率化
2-13 社会インフラの効率的な維持管理[遠隔監視](維持管理課)	◎	運用中	センサーシステムの活用による用水路管理	松尾地区用水路管理システムでリアルタイムに水位情報が確認でき、現場確認の負担を軽減	松尾地区井水管理者と引き続き情報共有を図る
2-14 社会インフラの効率的な維持管理[ドローン活用](土木課)	◎	運用中	ドローンによる災害発生箇所の確認	防災訓練にて遠隔確認訓練実施 災害査定説明資料の作成	防災訓練にて遠隔確認訓練実施 災害査定説明資料の作成
2-15 社会インフラの効率的な維持管理[遠隔臨場](地域計画課)	○	検討中	タブレットやボディカメラ等のカメラを用いてオンラインで現場確認ができる	業者からの情報収集 オンライン会議の試行 先進事例(長野県等)の確認	実装に向けた要件整理
2-16 上下水道施設の災害対応力の強化(経営管理課、水道課、下水道課)	◎	運用中	災害時等に上下水道が使用できない区域の情報提供を飯田市公開型GISで行う。	防災訓練時に水道の断水範囲、給水所及び下水道の利用制限・利用不可範囲の情報をGIS(いいだWebまっぷ)で公開	情報提供に関するマニュアル整備及び研修を実施する

### 基本目標2の総括

#### 1.防災分野

GIS(いいだWebまっぷ)を利用した災害情報の収集・集約訓練実施による災害情報の可視化、共有化、防災アプリ「結防」を活用した避難行動要支援者の「個別避難計画」の策定、消防団アプリによる、団員の動態管理や出動報告の負担軽減、災害時の迅速な情報共有

#### 2.社会インフラ分野

GIS(いいだWebまっぷ)を活用し、インフラの維持管理に必要な道路網図や上下水道管、消火栓等の情報や、災害時に上下水道が使用できない区域の情報を提供、給水工事や排水設備申請の電子化、ドローンや水位センサー等を活用した現場管理の省力化

## 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

### ◆基本目標3 飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
3-1 公民館活動の推進 [情報発信] (公民館)	—	運用中	・デジタルツールを活用して 公民館関係者との情報の やり取りを効率化する	・公用携帯導入によるLINEを通じた 各地区公民館関係者との情報共有 を実施	・公民館のガイドラインに基づき、 適切な利用を行う
3-2 公民館活動の推進 [会議の効率化] (公民館)	—	検討中	・公民館にタブレットを整備する ことで、会議により生じる作業 (運営、議事録作成など)の 効率化を図る	・費用面からタブレット整備は未実施	・引き続きタブレット整備を検討する
3-3 安心して出産や子育てが できる環境の整備 [病児保育事務システ ム](保育家庭課)	◎	運用中	・病児保育事務システムの運用	・令和7年度から病児保育予約アプリ (ぴったんこはるる)による予約 利用を開始	・アプリの管理と保守を行う
3-4 安心して出産や子育てが できる環境の整備 [母子サポートシステムの 構築](こども課)	◎	運用中	・子育てに関係する部署間で 参照可能な母子の連携システ ムの構築	・母子保健、児童福祉部門で児童 相談システムへの入力と閲覧が 可能となり、情報共有が可能に なった	・母子保健部門と児童福祉部門で行う 合同会議資料の効率的作成
3-5 安心して出産や子育てが できる環境の整備 [電子母子手帳] (保健課)	○	検討中	・母子手帳アプリの活用を促進 すると同時に、国の電子版母子 手帳のガイドラインに沿った 母子手帳の電子化をすすめる	・国ガイドライン未発出のため、既存 アプリ「母子モ」の活用を検討	・マイナポータルと連携する電子母子 手帳の業者の選定 ・健診会場や医療機関の環境整備
3-6 安心して出産や子育てが できる環境の整備 [子育て支援情報の発信] (こども課、保育家庭課)	○	運用中	・子育て関連情報ウェブサイトや、 SNS等を利用して子育て支援 情報や各保育園の魅力を発信 する	・子育て世代の各種イベントや情報、 庁内外の子育て支援に関する情報 をInstagramやウェブサイト で発信 ・自然保育の様子をInstagramや ウェブサイトから発信	・動画(リール等)活用で若者世代への 情報発信強化 ・ウェブサイトで引き続きタイムリーに 情報を発信 ・保育の様子の情報発信用の動画 作成を予定

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標3 飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
3-7 保育所等の現場の負担軽減 [保育所入所調整システム](保育家庭課)	—	検討中	・保育所等入所手続や事務処理のデジタル化	・入所審査、入所調整の事務負担軽減のため集計表の見直しを行った	・ぴったりサービスを利用したオンライン申請の検討
3-8 保育所等の現場の負担軽減 [保育所運営管理ツール](保育家庭課)	◎	運用中	・公立認定こども園の管理運営に関する業務支援システムの活用 ・保護者連絡ツールの活用	・保育支援システム(キッズビュー導入済み)により、おたよりや日々の活動記録を保護者へ配信、保育記録の電子化	・システムの適切な利用と保守
3-9 保育所等の現場の負担軽減 [児童発達支援システム](こども課)	◎	運用中	・こども発達センターひまわりの運営に係る通所者等の情報管理をデジタル化する	・令和7年4月から児童発達支援システム「デイロボ」を導入し、日々の実績記録や保護者との連絡帳機能などを活用	・引き続きデイロボにより、業務の効率化に取り組む ・利用環境の改善やシステムのバージョンアップ等により、より効率的な活用を検討
3-10 保育所等の現場の負担軽減 [5歳児相談資料のデータ化](こども課、保育家庭課)	○	検討中	・5歳児相談におけるこどもの発達状況スクリーニング用データのデジタル化	・保護者からの回答アンケート(紙面)について、AI-OCRの活用について検討	・保護者アンケート回収呼びかけの際に、メール配信システム等の連絡ツール活用を検討 ・園職員からのスクリーニングデータ提出方法のデジタル化を検討
3-11 教育DXの充実(教育センター)	◎	運用中	・保護者連絡ツールや校務支援システムの活用 ・GIGAスクール端末等のデジタル機器を活用した教育環境の整備 ・教員向けのICT支援の拡充	・保護者連絡ツールを使った学校への欠席・遅刻の連絡が定着 ・保護者連絡ツールを利用した学校や市からの通知により、紙配布物削減と教員の配布業務を削減 ・Googleの同時共同編集機能を利用した各校からの報告業務がスムーズになり、電話、FAXによる連絡が削減	・生成AIを校務利用し、文書作成や諸業務に係る時間削減を図る ・クラウド環境を生かしたロケーションフリーの働き方ができるようにセキュリティ面の環境を整備

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標3 飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
3-12 児童クラブの効率的な運営 (学校教育課)	○	運用中	・保護者へのアンケートのデジタル化	・ながの電子申請サービスによるアンケート実施で集計を効率化	・継続実施
3-13 給食費公会計業務の効率化 (学校教育課)	○	検討中	・学校給食費等の公会計システム化	・共同学校事務室研究部会(学校集金の業務改善)において、公会計化の課題について意見交換	・小学校給食費の実質無料化に伴い、学校集金の状況の変化が見込まれる ・令和8年度は、負担軽減事業の中学校への拡大の状況を見極めつつ、学校との意見交換を行い公会計化を検討
3-14 学びの場や学びの機会の充実[文化施設の管理効率化] (美術博物館・生涯学習・スポーツ課・中央図書館・公民館)	○	検討中	・社会教育施設の混雑状況などをリアルタイムで把握できるサービスの構築 ・美術博物館および附属施設のスマホ、キャッシュレス決済による入場券の発行と、施設等への出入場数の把握や遠隔監視システムによる管理	・公民館の混雑状況のリアルタイム把握は検討中 ・美術博物館のスマホ、キャッシュレス決済の継続	・公民館のフリースペース利用不可日を事前案内 ・美術博物館のキャッシュレス決済継続 ・教育施設におけるスマートロックの導入
3-15 学びの場や学びの機会の充実 [オンライン講座] (美術博物館・生涯学習・スポーツ課・公民館)	○	導入中	・講座のオンライン実施 ・恒常的に学習できる環境整備(講座のアーカイブ配信)や、新たな学習の方法を検討 ・出前講座内容のデジタル化、オンライン化	・社会教育機関に所属する学芸員やその研究内容の紹介動画配信を開始	・動画配信を継続 ・社会教育機関内で効果的なオンライン化手法を検討
3-16 学びの場や学びの機会の充実 [コミュニティプラットフォーム](公民館)	—	運用中	・遠く離れた人とつながったり、情報が集まる場所や、自己表現・自己実現の場としてのプラットフォームを構築	・二十歳の集い等でオンライン会話ツール活用し、飯田に居住していなくても公民館活動に関わる機会を創出	・高校卒業後、飯田から離れている若者にとっても、公民館活動に関わる機会として、オンライン会話ツール等を活用

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標3 飯田で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
3-17 学びの場や学びの機会の充実[図書システムのネットワーク化] (中央図書館、学校教育課)	—	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書分館のコンピュータシステムの導入</li> <li>・中央図書館と学校図書館の所蔵図書システムのネットワーク化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校への蔵書管理システム導入完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムを適切に運用管理し継続活用</li> </ul>

### 基本目標3の総括

#### 1.子育て支援のデジタル化

病児保育予約アプリ「ぴったんこはるる」の運用開始、Instagramやウェブサイトを活用し若者世代に向けて子育てイベント情報などを発信

#### 2.保育所・児童福祉現場の事務負担の軽減

公立認定こども園では保育支援システムを利用し、保護者への連絡や日々の保育記録の電子化、こども発達センターひまわりでは児童発達支援システムを導入し、実績記録や連絡帳機能の活用を開始

#### 3.教育現場のDX

小中学校での保護者連絡ツールの定着により、欠席・遅刻連絡の受付や紙の配布物が減少し教員の配付業務が削減、また、Googleの同時共同編集機能により各校からの報告業務がスムーズになり、電話やFAXによる連絡が削減

#### 4.学びの場・地域活動のデジタル化

学芸員等による研究内容の紹介動画配信や、「二十歳の集い」でのオンライン会話ツール活用など、時間や場所を問わない学びと交流の機会を創出、また、全小中学校への蔵書管理システムの導入が完了

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標4 自然と共に歩む豊かな循環型社会をつくる

取組テーマ		優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
4-1	環境学習機会の創出 (ゼロカーボンシティ推進課、環境課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつでも、どこでも閲覧可能な環境教育教材を作り、環境学習を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツ「ごみ探偵団WEB版」の令和7年度版を全小学校に配信し、環境課でそれを活用した出前講座を実施</li> <li>月刊情報、ショート動画等の環境学習コンテンツをSNS等で発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校で導入予定の気候変動教育プログラムで、動画配信による授業の実施、効果測定の実施のオンライン化を検討</li> <li>触れるデジタル地球儀「スフィア」を用いた環境学習機会の創出を検討</li> </ul>
4-2	ごみの減量と3Rの推進 [ごみの適正処分] (環境課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ分別促進アプリの積極的な活用によるごみの適正な処分、3Rの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ分別促進アプリ(さんあーる)のお知らせ機能を活用し、ごみ減量やごみ分別について意識啓発につながる情報を発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度よりアプリにチャットボット機能と閲覧履歴機能を追加し、市民の分別動向把握や、分別ニーズに合った意識啓発</li> </ul>
4-3	ごみの減量と3Rの推進 [ごみ集積所管理の効率化] (環境課、地域自治振興課)	一	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルツールを活用したごみ集積所の維持管理負担の軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集積所管理の実態把握に着手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域関係者との協議の場で、ごみ集積所やリサイクルステーション管理運営に関する負担軽減について検討</li> </ul>
4-4	環境保全に向けた行動変容 (ゼロカーボンシティ推進課、リニア推進課)	一	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>自家用車の利用だけでなく公共交通機関の利用や、歩きを推奨する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>うごくる。として「南信州エコドライブ10,000人プロジェクト」に参画し、シミュレーターを活用したエコドライブ技術習得を推進</li> <li>事業者向けにオンラインクラウドサービスサービスによるCO2排出量の可視化支援事業を実施</li> <li>バスロケーションシステムの導入</li> <li>利用促進(高校生以下バス1乗車100円の実施、鉄道利用促進のYouTubeバンパー広告)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーターを活用したエコドライブ技術習得</li> <li>オンラインクラウドサービスによるCO2排出量の可視化支援</li> <li>IT技術を用いた省エネ診断の受診促進等を行い、事業活動に係るエネルギーコスト及びCO2排出量の削減を支援</li> <li>公共交通の利用促進活動、利便性向上</li> <li>公共交通のキャッシュレス化検討</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標4 自然と共に歩む豊かな循環型社会をつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
4-5 エシカル消費の推進 (市民課)	○	運用中	・小中学校などに「エシカル消費」の意義について理解してもらい総合学習の時間などにおいて、学習の機会を創出する	・学校への出前講座の実施 ・「エシカル宣言」の動画を作成し、配信 ・啓発動画を各種活動で活用	・作成した動画を効果的に活用し、エシカル消費を推進 ・出前講座などの学習の機会を継続的に創出し、年齢に応じたより分かりやすい講座を検討
4-6 省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの活用促進 [エネルギーの可視化] (ゼロカーボンシティ推進課、総務文書課)	○	検討中	・再生可能エネルギー由来の電力の供給量や消費量をリアルタイムで把握(見える化)する ・公共施設の消費エネルギーの見える化	・公共施設における省エネ・再エネソリューションの導入可能性を検討	・段階的なソリューション導入に向け、引き続き検討
4-7 省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの活用促進[エネルギー管理システム] (ゼロカーボンシティ推進課)	—	検討中	・公共施設、家庭、企業の太陽光発電設備蓄電等が連携したエネルギーシステムやVPP(仮想発電所)を構築する	・地域内でエネルギー融通する仕組み(EMS:エネルギー・マネジメント・システム)の導入可能性を検討	・EMSの導入可能性について引き続き検討

## 基本目標4の総括

### 1.環境学習とエシカル消費の推進

デジタルコンテンツ「ごみ探偵団WEB版」を小学校へ配信し出前講座での活用、SNSを通じた月刊情報や環境学習のショート動画を発信し環境学習を推進、エシカル消費に関する啓発動画を作成・配信し学習機会を創出

### 2.ごみの減量・適正処理

ごみ分別促進アプリ(さんあーる)のお知らせ機能を活用し、ごみ減量に向けた情報発信

### 3.環境保全に向けた行動変容

シミュレーターを活用したエコドライブ技術の習得推進や、事業者向けにオンラインクラウドサービスを用いたCO2排出量の可視化支援、公共交通機関の利用を促すため、バスロケーションシステムの導入やYouTube広告等での利用を促進

### 4.省エネルギー・再生可能エネルギーの推進

公共施設の消費エネルギーの可視化や、省エネ・再エネソリューションの導入可能性の検討、地域内でエネルギーを融通する仕組み(EMS:エネルギー・マネジメント・システム)の導入可能性について検討

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標5 誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
5-1 営農者の高齢化対策・後継者支援 (農業課)	○	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な生産確保につながるデジタル技術の活用</li> <li>経験則などに裏打ちされた農業技術のデジタルアーカイブなどによるノウハウの継承</li> <li>生産団体等との連携による最新技術を導入したモデル圃場の展開</li> <li>農作業人材マッチングアプリを活用した人材確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機栽培水田の抑草のため、自動抑草ロボットの導入・実証</li> <li>市田柿の乾燥工程の作業効率化・品質向上を図るため重量・温湿度遠隔監視システム「実まもり博士」の導入支援</li> <li>1日農業バイトアプリの普及・利用を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動抑草ロボットを活用した実証栽培を行い、令和9年度以降マニュアルを整備し、普及</li> <li>「実まもり博士」の導入支援、周知などによる普及</li> <li>1日農業バイトアプリの利用者増加に向け、PR・周知</li> </ul>
5-2 森林資源の利活用推進 [GX活動の推進] (林務課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>J-クレジット制度の導入による環境配慮と森林資源の価値向上を図る</li> <li>ドローン等による測量技術を活用した現状地形、樹種、樹高の情報から、施業可能地域の集約化や地形に負担をかけない路網及び架線のルート選定等の施業計画を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>J-クレジットプロジェクトへの登録が完了</li> <li>森林データの複層化(データ修正等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>J-クレジットモニタリング調査及びクレジットの認証、発行に向けて取り組む</li> <li>森林データの複層化のためのデータ収集、整理等を実施</li> </ul>
5-3 森林資源の利活用推進 [施業の効率化・人材確保] (林務課)	◎	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>架線集材、ドローンやIT技術などの活用、高性能林業機械の導入支援などにより、施業の効率化、安全確保を図り、労働環境の改善や、若者や女性など多様な人材確保に繋げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>架線集材社会実装調査により、架線集材におけるドローン活用を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>架線集材におけるドローン活用によるロープ引き回し作業導入(費用対効果等)の検討</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標5 誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
5-4 事業承継者問題の解決 (産業振興課)	○	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業承継に関する情報をいつでも取得できる環境の整備</li> <li>事業承継・引継ぎ支援センターの後継者人材バンクの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市公式ウェブサイトへ事業承継に関する情報や、各支援機関等のサイトへのリンクをページ内に掲示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報提供の継続及び事業承継・引継ぎ支援センターが行っている後継者人材バンクの情報提供を公式ウェブサイトで行う</li> </ul>
5-5 多様な働き方ができる場の創出 (産業振興課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルキャリアを形成し、スキルを活かすためのテレワーク環境やコワーキングスペースを創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出産や子育てなどで離職している女性を対象に、デジタル技術の習得と自営型テレワーカーとして働くことの実現を支援する「自営型テレワーカー養成講座」を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度は「自営型テレワーカー養成講座」を継続して開催し、令和9年度以降の講座の方向性を検討</li> <li>過去の講座修了者との情報交換やフォローアップを継続</li> </ul>
5-6 中小・零細、高齢事業者のデジタル化支援 (商業観光課)	—	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者ニーズへの対応、事業の効率化につながるデジタルツールの活用</li> <li>情報発信広告宣伝のデジタル化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート(地域通貨実証実験)を実施し、消費者・商業事業者の現状や要望を把握し、次年以降の事業構築に活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存店舗のデジタル化を含む店舗改修等を支援する補助金を創設</li> </ul>
5-7 観光サービスのデジタル化推進 (ツーリズム振興室、遠山郷観光振興室)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅等の観光施設にて観光情報、道路情報、人流のヒートマップ配信の実施</li> <li>観光地におけるキャッシュレス決済導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅遠山郷観光案内所にクラウド型デジタルサイネージを導入し、観光・伝統文化等の地域情報に加え周辺の道路・気象情報の提供開始</li> <li>道の駅遠山郷(温泉・売店・食堂)にキャッシュレス決済を導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルサイネージ等を活用した市内観光案内所の連携について検討</li> <li>キャッシュレス決済未導入の観光施設への導入に向けた指定管理者との検討</li> </ul>
5-8 戦略的な観光振興 (ツーリズム振興室、遠山郷観光振興室)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の観光人流を収集、可視化し分析</li> <li>データに基づく観光戦略立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そらさんぽや大平宿等の観光施設へ赤外線人数カウンターを設置し、来訪者のボリュームを把握することで案内所及びガイド施設へのチラシ設置や誘導員の配置計画を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スターリンク導入による持続的かつ効果的な観光インフラのあり方を検討し、利用者情報の収集によるマーケティング最適化への方策を探る</li> <li>人流データを活用した県の「外国人の延宿泊者数調査」及びスマートフォン調査による観光地点等入込客数調査の分析結果から具体的な戦略を立案</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標5 誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる

取組テーマ		優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
5-9	地域内経済循環の推進 (商業観光課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内生産・流通・消費や外貨獲得につながるデジタルツールの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ポイント付与による地域通貨実証実験結果から、地域内経済循環への効果は限定的であることを確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市事業の認知度向上・参加者増加等につながる地域ポイントとして、経過観察を継続</li> </ul>
5-10	製造業のDX推進 (工業課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材不足業務平準化生産性向上におけるDX化自動化の取組促進</li> <li>デジタル人材の育成やデジタル技術関連企業の誘致</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内製造業を対象とした企業ヒアリングの実施による、生産工程・業務プロセスにおける課題把握・整理</li> <li>生産における課題抽出・改善から自動化に向けた考え方をテーマとしたセミナーの開催</li> <li>AIを活用した生産管理に関するセミナー開催に向けた企画・準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内製造業における業務プロセスや生産工程を対象とした課題整理・分析の継続</li> <li>生産管理や工程管理分野におけるデジタル技術・AI活用に関するセミナーや情報提供の継続</li> <li>製造現場における省力化・自動化に向けたデジタルツール導入支援</li> <li>関係機関と連携した製造業DXを担う人材育成および伴走型支援の検討</li> </ul>
5-11	空の空間利活用による新産業の育成 (工業課)	—	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時、平常時の物資共有含めドローンを利用した空の利活用</li> <li>航空機電動化次世代空モビリティ分野の地域産業化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信州大学次世代空モビリティシステム研究拠点の設置、共同研究講座の開講</li> <li>自然災害が想定されるエリアにおける通信環境を含めた次世代空モビリティの運用方法に関する検討・検証</li> <li>防災訓練でのドローンを活用した荷物運搬訓練の実施</li> <li>大手重工メーカーから示された次世代空モビリティに関するニーズを踏まえた技術的・事業的観点からの検討</li> <li>次世代空モビリティの技術や動向に関するセミナーの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信州大学次世代空モビリティシステム研究拠点および共同研究講座との連携継続</li> <li>次世代空モビリティ分野の技術動向や社会実装に関する情報収集・整理</li> <li>災害対応や物流分野を想定した空間利活用に関する運用モデルの検討</li> <li>実証的取組や訓練等を通じたドローン・次世代空モビリティの活用可能性検証</li> <li>地域産業との連携による新たな事業創出や人材育成に向けた取組の検討</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標5 誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
5-12 新産業の育成 (工業課)	—	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートアップ支援</li> <li>・企画力向上による産業の活性化</li> <li>・地域内IT・IoT事業者の総合的な企業力強化を図ることによる地域としてのIT系競争力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX人材育成講座(ネットワーク講座・セキュリティ講座・AI活用講座)開催</li> <li>・スタートアップ支援としての創業塾の開催</li> <li>・ビジネスプランコンテストを開催し、AIを活用したビジネスプランが最優秀賞を獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX人材育成講座やデジタル技術に関する学習機会の継続的な提供</li> <li>・スタートアップ支援や創業支援事業の継続実施</li> <li>・ビジネスプランコンテスト等を通じた新事業創出機会の提供</li> <li>・デジタル技術やAIを活用した新産業分野への展開可能性の検討</li> <li>・関係機関と連携した新産業の芽の発掘・育成に向けた支援の充実</li> </ul>

### 基本目標5の総括

#### 1. 農林業の省力化と高付加価値化

農業分野の人手不足や高齢化への対策として、有機栽培水田での「自動抑草ロボット」の導入・実証や、市田柿の乾燥工程を遠隔監視する「実まもり博士」の導入支援、「1日農業バイトアプリ」による人材確保  
森林資源の価値向上を図るため「J-クレジット」プロジェクトへの登録を完了、施業の効率化に向けた架線集材におけるドローン活用の検討

#### 2. 商業・観光分野のデジタル対応とデータ活用

道の駅遠山郷におけるクラウド型デジタルサイネージによる情報提供やキャッシュレス決済の導入、観光施設への赤外線人数カウンターの設置による来訪者データに基づくチラシ設置や誘導員配置計画の作成  
地域内経済循環の視点からの地域ポイント付与による地域通貨実証実験の実施

#### 3. 製造業のDX推進と新産業の育成

市内製造業における課題のヒアリングや、生産管理や自動化に向けたセミナーの開催、AIを活用した生産管理に関するセミナーの検討  
信州大学次世代空モビリティシステムの共同研究拠点の設置・共同研究講座の開講や、防災訓練でのドローン荷物運搬訓練を実施  
DX人材育成講座(ネットワーク・セキュリティ・AI活用)や創業塾、ビジネスプランコンテストを開催し新産業の育成を支援

#### 4. 多様な働き方の創出と事業承継支援

出産や子育て等で離職した女性を対象に、デジタル技術を習得して働く「自営型テレワーカー養成講座」の実施、事業承継に関する情報や後継者人材バンクの情報を公式ウェブサイトから提供

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標6 誰もが生涯を通じてその人らしく暮らすまちをつくる

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
6-1 民生委員・児童委員の負担軽減 (福祉課、長寿支援課、地域自治振興課)	○	検討中	・福祉台帳、高齢者台帳の電子化 ・タブレットを利用した電子化台帳の管理	・民生児童委員の負担軽減のため高齢者台帳の作成依頼内容を検討 ・台帳管理方法の負担軽減を含めた福祉台帳新システムの導入検討	・民生児童委員の負担軽減に向けた高齢者台帳作成の見直し ・福祉台帳のタブレット化へ向けた検討
6-2 デジタルデバイドの解消 (デジタル推進課、福祉課、長寿支援課)	◎	運用中	・誰もがスマートフォン等のデジタルデバイスを生活の中で活用できるように、スマートフォンやパソコン、アプリ等の使い方教室を実施する	・60歳以上の方を対象に、ワード及びエクセル初級講座の開催 ・障がい者パソコン教室の開催 ・初心者向けスマートフォン教室の開催	・高齢者向けワード及びエクセル初級講座の開催 ・障がい者パソコン教室の開催 ・初心者向けスマートフォン教室を開催
6-3 医療・介護サービス提供体制の維持 (市立病院、長寿支援課、保健課)	◎	導入中	・専門的人材の確保に向けたSNSなどによる情報発信の強化 ・介護認定事務や入所記録のデジタル化	・要介護認定支援システムの標準化により、介護認定事務のDX基盤が構築 ・インスタグラムでの情報発信による看護職の人材確保 ・Web問診システムの活用による情報の取り込み	・標準化された要介護認定支援システムを活用し、認定調査用端末の導入等の個別的な取組を実施 ・看護職人材確保のためのSNSなどによる情報発信
6-4 健康増進・介護予防 (長寿支援課、保健課)	◎	運用中	・高齢者の介護予防や、健康増進のための身体活動の増加や運動習慣の定着に向けて、健康ポイントを地域ポイント(地域通貨)として活用する	・介護予防の取組におけるインセンティブとして健康ポイントを地域ポイントに交換 ・おさんぽポイント(歩数ポイント)の付与	・スマホアプリによる「おさんぽポイント事業」、ボランティア活動に対して地域ポイントを付与する「フレイル予防ポイント事業」を実施

### 取組の総括

- 1.福祉・高齢者支援業務の負担軽減  
民生児童委員の業務負担を軽減するため、紙で管理されている福祉台帳や高齢者台帳の電子化に向けた検討
- 2.デジタルデバイドの解消  
誰もが生活の中でデジタルデバイスを活用できるよう、60歳以上を対象としたワード・エクセルの初級講座、初心者向けスマートフォン教室、障がい者パソコン教室を実施
- 3.医療・介護サービス提供体制の維持  
介護認定事務のDX基盤を構築、市立病院でのWeb問診システムを活用した情報の取込、インスタグラムでの情報発信による看護職の人材確保
- 4.健康増進・介護予防  
介護予防や健康増進活動のインセンティブとして、地域ポイントを活用

※優先度:◎ 最優先、○ 優先、— 継続的検討

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆基本目標7 リニア・三遠南信道時代に向けたまちの基盤をつくる

取組テーマ		優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
7-1	都市計画情報のオープンデータ化 (地域計画課)	◎	運用中	・都市計画図等のオープンデータ(公開GIS)化	・GIS(いいだWebマップ)で都市計画図を公開し、市民及び事業者への周知、課題の洗い出し、データ修正を実施	・都市計画情報の随時更新 ・事業者への周知の継続
7-2	3Dデータ活用による土地利用及び景観等の検討(地域計画課、リニア整備課)	—	運用中	・3Dデータ活用/オープンデータ化による土地利用及び景観づくり	・リニア駅周辺における高さ制限の緩和検討に活用、環境・景観配慮指針の策定 ・リニア駅前広場及び周辺道路の3次元化に向けた検討	・市民や事業者への説明に活用 ・木造建築物等の計画決定及び3次元化に向けたデータの収集
7-3	持続可能な地域公共交通の構築 [公共交通のニーズ把握] (リニア推進課)	◎	導入中	・公共交通のニーズを把握するためのデジタル技術を活用したアンケート調査や、移動需要に対するデータを収集する	・要件整理、関係者調整(事業者や住民への直接聞き取り、及び運行実績データの分析)	・運行に対する意見・要望のウェブ受付の開設
7-4	持続可能な地域公共交通の構築 [効率的な公共交通の運営] (リニア推進課)	○	検討中	・デジタル技術を活用して、ニーズに基づいた公共交通が運用され、事業者は効率的に車両等の運用ができるようになる ・自動運転技術導入に向けての実証実験を進める	・情報収集、検討	・情報収集、検討
7-5	公共交通の利便性向上 [バスロケーション] (リニア推進課)	◎	運用中	・路線バスの運行位置情報を提供し、バスの利用者がスマートフォンなどで位置を確認することができる	・R7.4.1からサービス提供開始	・サービスの維持管理、改善
7-6	公共交通の利便性向上 [キャッシュレス決済] (リニア推進課)	—	検討中	・公共交通機関への汎用性の高い決済方法の導入	・情報収集、検討	・情報収集、検討

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## 基本目標7の総括

### 1. 都市計画・景観形成へのデジタル活用

GIS(いいだWebマップ)を用いて都市計画図をオープンデータとして公開、リニア駅周辺の高さ制限緩和の検討や環境・景観配慮指針の策定に3Dデータを活用

### 2. 持続可能で利便性の高い地域公共交通の構築

公共交通の運用改善に向けて、事業者や住民への直接聞き取りや運行実績データの分析、スマートフォン等で路線バスの運行位置を確認できる「バスロケーションシステム」のサービスを開始

## ◆共通項目 地域DXを推進するための基盤整備

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
A-1 地域連携によるデジタル人材の育成 (デジタル推進課、産業振興課、工業課)	◎	運用中	高等教育機関や地域内のICT事業者などと連携し、「デジタル技術を使える」、「デジタル技術により新たな事業製品などを生み出す人」、「デジタル化のニーズを伝えられる人」の育成に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>初心者向けプログラミング講座、地元IT企業等と連携した市民向け生成AI活用講座の実施</li> <li>デジタルものづくり工房ファブスタでのデジタルものづくり体験・講座の実施</li> <li>自営型テレワーカー養成講座」を実施(5-5再掲)</li> <li>産業分野でのDX人材育成講座の開催(5-12再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミング教室の実施</li> <li>デジタルものづくり工房ファブスタを活用した体験型・実践型人材育成の継続・拡大</li> <li>産業分野でのリスキリングとしてのDX人材育成講座の継続的な実施</li> <li>製造業を中心とした現場ニーズに即したデジタルスキル向上機会の提供</li> <li>関係部署・教育機関・地域企業との連携による人材育成体制の強化</li> </ul>
A-2 デジタルデバイドの解消 [再掲] (デジタル推進課、福祉課、長寿支援課)	◎	運用中	誰もがスマートフォン等のデジタルデバイスを生活の中で活用できるように、スマートフォンやパソコン、アプリ等の使い方教室を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>60歳以上の方を対象に、ワード及びエクセル初級講座(全10回コース)の開催</li> <li>障がい者パソコン教室の開催</li> <li>初心者向けスマートフォン教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者向けワード及びエクセル初級講座の開催</li> <li>障がい者パソコン教室の開催</li> <li>初心者向けスマートフォン教室を開催</li> </ul>

# 飯田市地域DX推進ロードマップの取組状況

## ◆共通項目 地域DXを推進するための基盤整備

取組テーマ	優先度	進捗	課題解決のイメージ	令和7年度の主な取組	令和8年度以降の取組予定
A-3 データの整備と活用 (全庁[データ所有原課]、 デジタル推進課)	◎	運用中	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政が保有する情報をオープンデータとして整備し、公開する</li> <li>組織を超えてデータ(情報)共有する</li> <li>市民や事業者が積極的にデータを利活用する</li> <li>様々な団体や事業者が所有するデータをトリミングの上、公開する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIS(いいだWebまっぷ)を活用し、熊出没マップや、子育て施設情報、バリアフリートイレの設置場所などの地図情報を公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイトやGISを効果的に活用し、市が所有する情報をオープンデータとして公開する</li> </ul>
A-4 シビックテックの推進 (デジタル推進課)	◎	導入中	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民がオープンデータなどを活用し、デジタルツールや自ら使いやすい(使うための)アプリ開発などを行い、地域課題の解決に取り組めるように、地域社会のDX推進の機運醸成を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部大学と連携して、GISを活用した地域課題の解決方法を可視化、言語化するための職員研修を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育機関等と連携して、データを活用した地域課題の解決の手法を検討</li> </ul>

## 共通項目の総括

### 1.地域連携によるデジタル人材の育成

高等教育機関や地域内のICT事業者等と連携し、市民向けの初心者向けプログラミング講座や生成AI活用講座を実施、デジタルものづくり工房「ファブスタ」での体験・講座や、自営型テレワーカー養成講座、産業分野でのDX人材育成講座の実施

### 2.デジタルデバイドの解消

60歳以上を対象としたパソコン講座(ワード・エクセル)、障がい者パソコン教室、初心者向けスマートフォン教室の実施

### 3.データの整備と活用

市が保有する情報をオープンデータとして整備し、市民や事業者が活用しやすい公開型GIS(いいだWebまっぷ)により、「熊出没マップ」やバリアフリートイレの設置場所などの地図情報を公開、GISを活用した地域課題の解決方法を可視化・言語化するための職員研修を実施